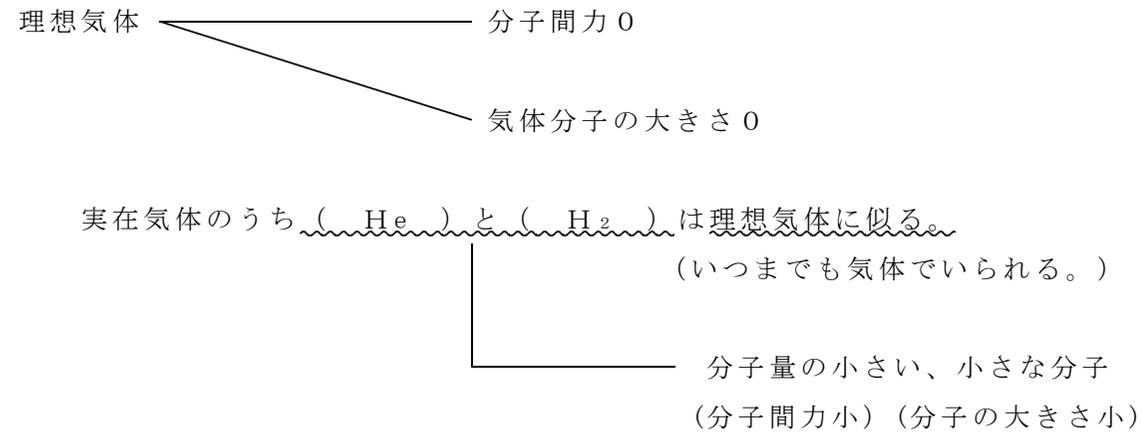


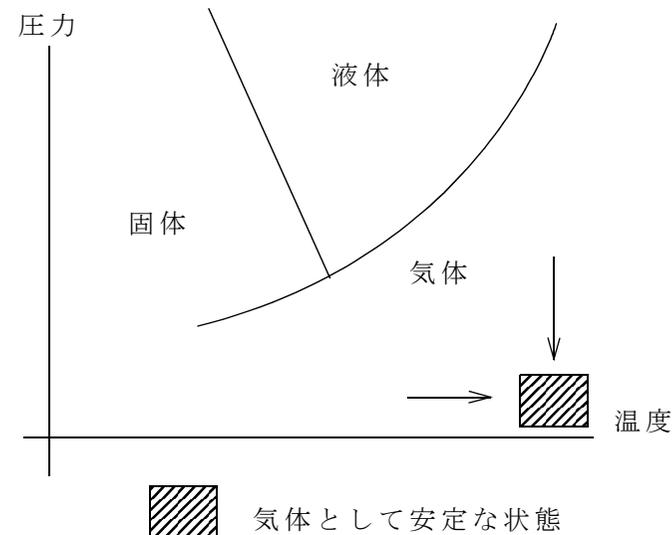
理想気体と実在気体

理想気体………いつも、いつまでも気体で、気体の状態方程式に完全に従う。
 -273℃でも気体で、その体積は0.

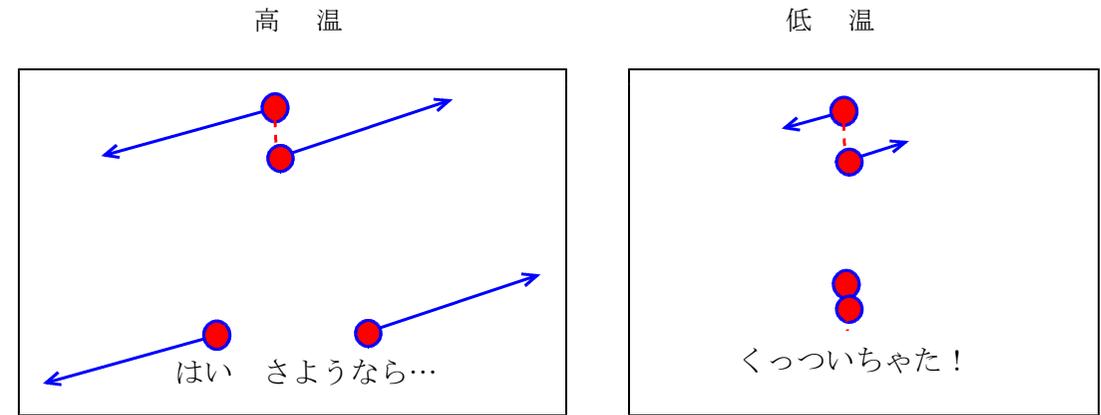


一般に (高温) ・ (低) 圧になるほど理想気体に近づく。
 (安定な気体状態)

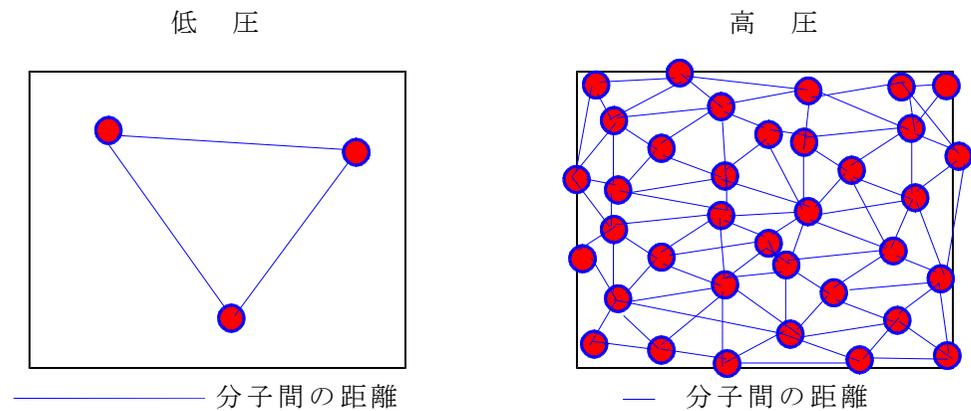
水の状態図



なぜか



高温だと熱運動 E > 分子間力だから、(気体のまま)



$$P = \left(\frac{RT}{V} \right)_{\text{一定}} \cdot n$$

(T) と (V) が一定ならば、(P) は (n) に (比例) する。

低圧だと単位体積中に含まれる気体の分子数は (少な) く、平均した分子間の距離は [大き (長)]。よって、分子間に働く [力 (分子間力)] は、きわめて [小さ (弱)]、これを無視できる。